



Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第126号 2025年5月30日

ゴールド

トランプ大統領が50%の対EU関税を7月まで延長で、ゴールドは下落

シルバー

中国は4月に太陽光発電能力45GWを追加し、前年比215%増

プラチナ

ジョンソン・マッセイ、ブルー水素や再エネ資産を含む触媒部門を18億ポンド(\$24億ドル・3500億円)でハネウェルに売却

パラジウム

米連邦議会下院はEVを含む国内産自動車のローン利息を年1万ドルまで税控除対象に含む減税案を提出

ロンドンプラチナウィーク開催中に プラチナ再び1000ドル突破

先週、PGM 産業関係者がロンドンに集まり、マーケットの課題や今後について話し合いを持ったが、この席で我々は、プラチナ、パラジウム、ロジウムに加えて今年からはイリジウムとルテニウムのマーケット分析も網羅した『PGM Focus 2025』を発表した。プラチナウィークでは PGM 全般を広くカバーする様々なイベントが開催され、中でも一番関心を集めたのは、その週に価格が10%上がったプラチナ。パラジウムもそれに釣られて4%上がった。

プラチナのこの動きは、昨年プラチナウィークが開催された時にも月曜日から金曜日の間に9%上がり、一年ぶりに1000ドルを割ったのと同じ。しかし実は過去10年間、プラチナウィークの間のプラチナの上昇率は平均1%だったことから、昨年と今年とは異例と言える。今年の上昇は特にプラチナのファンダメンタルズの好転に起因している。過去2年間のプラチナ市場は現物不足という点で多くのアナリストの意見は一致しており、我々の予測も2024年は15.5トン、2025年も16.5トンのプラチナ不足。パラジウムとロジウムが最高値からそれぞれ71%と82%下落している中、現在の供給量を維持していくために十分な投資がなされてきたとはいえ、それに加えて鉱山生産、リサイクルのどちらも収益性の低下が目立つ。こういったことがプラチナの生産量に影響してプラチナ不足を拡大させ、投資に有利な環境を作り出している。

プラチナウィークで取り上げられたタイムリーな話題の一つに、プラチナが関税にそれほど影響を受けず900ドルの大台を保っていることがある。他のコモディティーは、4月にブルームバーグコモディティーインデックスが5%下がるなどしたが、プラチナの下落は3%にとどまった。しかしS&P 500は2%しか下がらず、マーケットは概ね堅固さを保った。

ゴールドは安全資産需要に支えられて6%上昇し、プラチナもそれに支えられあまり下がらずに済んだ。

プラチナのファンダメンタルズに話を戻すと、プラチナ不足の大きな原因は供給が伸びないことだ。2024年の鉱山生産は、南アフリカで半加工在庫の処理が行われたことで3%増えたが、今年はそのような嵩上げはないため、生産は168.9トンにとどまる予測だ。これは、2014年を除く2010年～2019年の平均よりも13%（24.3トン）少なく、マーケットから失われた生産量がいかに大きいかかわかる。リサイクル供給にも課題が多い。大きく減った2023年の水準からは回復したが、メタル価格が低迷してリサイクル素材の流通を滞らせているため、2021年のピークよりも25%低いままだ。

先週話題になったもう一つのテーマはEV生産の鈍化で、これはプラチナ投資には有利な材料だ。2024年のEV生産の伸びは何度も下方修正がなされたのちに9%になったが、これはEVの普及が始まって以来最も低い成長率だ。とはいえ普及が止まったわけではなく、普通乗用車におけるEVのマーケットシェアは、2023年は12%、今年は16%に増える見込みで、プラチナ需要には逆風だ。一方で、ハイブリッド車のシェアは20%から30%に広がり、PGM需要の追い風になっているが、自動車のプラチナ需要は一般的に減っており、2024年に続いて2025年もその傾向は変わらないだろう。

世界のプラチナ宝飾品製造は、2024年は9%増えて5年ぶりの高い水準になり、2025年はさらに5%伸びる見込みだ。ゴールドとの価格差を背景に全ての地域が好調だったが、好調な輸出と国内需要に支えられたインドが31%と大きく伸びた。

プラチナウィーク期間中のプラチナ価格



2025年もプラチナとゴールドの価格差は大きくなるだろうが、その中で、欧米市場ではプラチナへのシフトが続き、中国と日本でも需要が伸びるだろう。しかし、インドは、米国への輸出が関税の影響で不透明に、国内もゴールドの高値で消費者が店舗から遠のき、プラチナ商品の販売の機会が減って、需要は10%減る予測だ。

LPPM 主催のセミナーやその他の話し合いの場では工業のプラチナ需要も取り上げられた。その中で、プラチナとロジウムが使われているグラスファイバー製造用ブッシングに、中国ではそれがパラジウムに置き換わる動きがあるという話題が取り上げられた。しかし、この動きはまだ初期段階にあり、プラチナとパラジウムの現在の価格差も考え、我々の分析にはまだ考慮していない。プラチナにはマイナスだが、パラジウムの需要を押し上げるには有利ということで、PGM 市場から見るとバスケット価格が横ばいになる可能性がある。

このような話し合いが行われている間にプラチナ価格が1098ドルをつけたのだ。2年ぶりの高値になったところで利益確定売りが出るだろうが、我々は1200ドルまで上がる可能性があると考えている。関税、特に自動車に対する関税がプラチナウィークで盛り上がったセンチメントに水を差すかもしれないが、マーケットのプラチナ不足は変わらない。しかし、102.6トンのETPを含む豊富な地上在庫が、今年の高値更新が続く可能性を抑える要因となるだろう。

プラチナ市場の需給バランス

